

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	れいんぼう川崎	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 成田 哲夫 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護・施設入所（定員60名） 契約者数60名（平成31年3月31日現在） 短期入所（定員10名） 延利用者数 2,939名 自立訓練（定員20名） 契約者 33名（機能訓練2名、生活訓練31名） 在宅リハ訪問件数 516名、診療延件数1,756件																										
収支実績	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">収入</th> <th style="text-align: right;">支出</th> <th style="text-align: right;">収支差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉事業活動 764,637千円</td> <td>福祉事業活動 733,429千円</td> <td>-5195千円</td> </tr> <tr> <td>給付費 394,542千円</td> <td>人件費 458,282千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市独自扶助 113,710千円</td> <td>事務費 64,304千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料 122,911千円</td> <td>事業費 67,933千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金 54,348千円</td> <td>拠点区分間繰入金 142,909千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 79,126千円</td> <td>施設整備等 36,403千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 764,637千円</td> <td>合計 769,832千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入	支出	収支差額	福祉事業活動 764,637千円	福祉事業活動 733,429千円	-5195千円	給付費 394,542千円	人件費 458,282千円		川崎市独自扶助 113,710千円	事務費 64,304千円		指定管理委託料 122,911千円	事業費 67,933千円		拠点区分間繰入金 54,348千円	拠点区分間繰入金 142,909千円		その他 79,126千円	施設整備等 36,403千円		合計 764,637千円	合計 769,832千円			
収入	支出	収支差額																									
福祉事業活動 764,637千円	福祉事業活動 733,429千円	-5195千円																									
給付費 394,542千円	人件費 458,282千円																										
川崎市独自扶助 113,710千円	事務費 64,304千円																										
指定管理委託料 122,911千円	事業費 67,933千円																										
拠点区分間繰入金 54,348千円	拠点区分間繰入金 142,909千円																										
その他 79,126千円	施設整備等 36,403千円																										
合計 764,637千円	合計 769,832千円																										
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態の変化や障害の重度化による介護量の増加に伴い、ケア・業務マニュアルの適宜見直しを行った。 ・「地域リハ合同ケース検討会」を月一回実施し、地域による対応の差が出ないように努めるとともに、支援手法や関係機関との連携のあり方等について意見交換を行うなど、支援技術の向上を図った。また、地域リハの支援技術を継承していくため、言語化によるサービス提供に関するデータ蓄積を行った。 ・地域とのネットワーク構築・連携を円滑にするため、3区の地域自立支援協議会や各種担当者会議に参加し、様々な職種に係るセラピスト同士で情報交換・課題共有を図っている。 																										

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	5	10
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
（評価の理由） ・相談支援については、多種多様な相談を受け付け、障害福祉サービスではフォローしきれないケースや、家族・本人等からの一時相談にも対応した。また、他の専門機関を含めた関係機関と連携し、切れ目のない支援を心掛けた。 ・自立訓練事業については、身体・精神機能の維持・向上という視点だけでなく、日々の生活を送る上での技術を身につけられるよう支援を行い、その人らしい生活が送れるよう支援した。 ・在宅リハビリテーション事業については、住み慣れた地域でその人らしく生活できることを目標に、専門職チームにより専門的かつ総合的な評価を実施した。また、北リハ・南リハとともに合同ケース検討会を月1回実施し、地域による対応の差が出ないように努め、また他職種による多角的な視点から意見交換を行う事で全体の支援技術向上につながった。 ・ケアマネなど地域の支援者を対象とした高次脳機能障害研修に加えて、平成30年度から難病研修会を新たに実施し、地域のニーズに応じた専門的な知識や技術の普及につとめた。また、国際福祉機器展の報告会を実施し、6事業所15名の参加を得た。 ・れいんぼう川崎における役割の再認識や更なる目標設定のため、直近3か年の取組等をまとめた紀要を作成した。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか。	5	2	2
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	2	2
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
（評価の理由） ・支出については、耐用年数を超えた備品修理費などによって、見込みを少し上回ったが、ほぼ予算通りの支出であった。また前期繰越分が残っているため、収支はマイナスとなっている。 ・収入については、事業所内でのインフルエンザ流行のため利用者数が一時減るなどの理由で、見込みを少し下回ったが、ほぼ予算通りであった。 ・法令や法人の経理規程に則り、会計監査人による監査など適正に金銭管理が行われた。					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	5	5
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から開始した「利用者の会(虹の会)」を継続し、平成30年度は利用終了者だけではなく、その家族にも声を掛け、地域に暮らす障害者同士のネットワークと、それを支える家族のネットワークを構築する手助けを行った。 障害当事者だけではなく、子供から高齢者まで楽しめるスポーツとしてボッチャを積極的に採用し、「みんなのボッチャ」として年1回のボッチャ大会の開催や、障害者通所施設への職員派遣など、ボッチャに取り組む拠点づくりを努めた。 利用者との日々の会話やアセスメントを通して意見・要望を聞き取ることを基本とし、また意見箱を2か所設置している。利用者満足度調査を毎年行い、その結果と改善の取組について事業説明会で報告している。 					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	2	2
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	2	2	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の資質向上については、研修委員会の計画に基づき内部・外部の研修を積極的に受講している。また、研修会での発表や学会にシンポジストとして参加するなど、専門職としての自己研磨だけでなく、福祉業界全体の質の向上に資している。 事故を未然に防ぐ観点からケアマニュアルを作成し、危険の予知と注意事項を手順に盛り込み、また事故が発生した際は迅速かつ適切な対応ができるようにしている。事故防止検討委員会を月1回開催し、関係職員への周知や指示を徹底している。 平成30年度、職員の勤務時間について、就業システム上の本来の退勤打刻と残業時間の記録に乖離がみられる箇所が散見されるとして、労働基準監督署から指導を受け、改善に向けた取り組み実績を報告書にまとめ、提出した。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の定期保守点検等、外部委託している業務は予定どおりに実施され、不具合の報告を受けた場合も迅速に対応している。また開設から20年以上経過する中で、給湯器や空調等、利用者の生活に大きな影響を及ぼす機器類については、設備機器の不具合が頻発するが、その都度川崎市と連絡を行い、迅速に対応している。 					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→40点以上50点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・在宅リハビリテーション事業と自立訓練事業でお互いに連携しながら、住み慣れた地域でその人らしく生活できることを目標に、利用者一人ひとりのライフスタイルに応じた質の高い支援を行っている。
- ・支援の中で獲得した知識・技術を講師や学会発表、論文執筆の形で関係者に還元し、れいんぼう内外で専門職の育成支援に積極的に取組んでおり、当事者や家族を地域全体で支える仕組みの構築に寄与している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・労働基準監督署から指導があった労働時間管理の適正化等について、今後も引き続き適正な労務管理を行っていく必要がある。